

特別の教科 道徳

I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領(平成29年3月)に示された「特別の教科 道徳」の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

1 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長	
共通 観点	(1) 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成、「本県教育が目指す人間像」の育成に資する内容、構成となっているか。
	(2) ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う上での特長	
教科 独自 観点	(1) 児童の発達の段階に即し、ねらいを達成するために適切に配慮されているか。
	(2) 児童が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるよう適切に配慮されているか。
	(3) 指導方法を工夫できるよう言語活動や問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等について適切に配慮されているか。
	(4) 公正な視点から、児童の発達の段階に即し、物事を多面的・多角的に考えられるよう適切に配慮されているか。
	(5) 現代的な課題などにおいて、国際的な視野も含めて、広く題材の選択等を行っているか。
	(6) 家庭や地域社会と連携した活用ができるよう適切に配慮されているか。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ(ユニバーサルデザイン)等の観点からの表記・表現や体裁の特長	
共通 観点	(1) 文章は、わかりやすく、質・量ともに豊かな記述内容となっているか。
	(2) 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3) レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

II 選定資料利用上の留意点

- 1 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 2 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 3 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

発行者		日 文	光 文	学 研	廣あかつき
<p>観点</p> <p>1 豊かな人間性の育成を図る上での特長</p> <p>教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、</p>	<p>(1) 教科的特質に応じて、「教育的」と及び「教育の目標」の達成、本県教育が目指す人間像の育成、資する内容、構成となっているか。</p>	<p>・年間3回、「人とかかわり」を重要テーマに、いじめ防止に関する複数の教材を続けて学習するように位置付けることで、いじめをしない、許さない心を育むことができるよう配慮されている。</p>	<p>・いじめ問題、生命尊重に関する題材を取り扱うとともに、実態に応じて弾力的に学習できるよう、資料の配列を工夫することで、命を大切にする心や豊かな人間性を育むことができるよう配慮されている。</p>	<p>・生命尊重、人とかかわりなどについて考えを深める教材を連続して配置することで、命を大切にする心や友情、思いやりなど豊かな人間性を育むことができるよう配慮されている。</p>	<p>・生命尊重、いじめ問題を含めた友達とかかわりに関する教材を配置するとともに、各学年に「命」に関する特設ページを設けることで、豊かな人間性を育むことができるよう配慮されている。</p>
	<p>(2) ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然が扱われて理解を深めるか。</p>	<p>・5年「心のベンチ」のコーナーの「平和に向けて今できること」で、長崎市の平和祈念式典の写真を紹介することで、平和を希求する本県への関心を高められるよう配慮されている。</p>	<p>・3年で、体操の内村航平選手を、6年で、シーボルトの功績を紹介することで、本県の歴史やゆかりのある人物への関心を高められるよう配慮されている。</p>	<p>・3年で、長崎くんちの様子を、5年で、体操の内村航平選手、明治日本の産業革命遺産、6年で、長崎大学病院に勤務する土井めぐみさんを紹介することで、本県への関心を高められるよう配慮されている。</p>	<p>・4年で、本県にゆかりのある岩崎弥太郎を、6年で、体操の内村航平選手の小学校時代の様子を紹介することで、本県への関心を高められるよう配慮されている。</p>

Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

観点	発行者	東 書	学 図	教 出	光 村
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、よりよく生きるための基礎となる道徳性を養う上での特長</p>	<p>(1) 児童の発達のために適切に配慮されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の後に「考えよう①②」で学習を振り返る発問を設けることで、学習のねらいに迫ることができるよう配慮されている。 「出会う・ふれ合う」「つながる・広がる」のコーナーを効果的に配置することで、児童の発達の段階に即した学習が深まるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 別冊に「やってみよう・考えよう・見よう」の視点から発問を設けることで、学習のねらいに迫ることができるよう配慮されている。 現代的な課題を「コラム」として位置付けることで、児童の発達の段階や興味・関心に即した学習が深まるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の後に、「考えよう」「深めよう」「つなげよう」などの視点を設けることで、学習のねらいに迫ることができるよう配慮されている。 補充教材を巻末に位置付けることで、児童の発達の段階に即した発展的な学習が展開できるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の後に、「考えよう・話し合おう」の視点を設けることで、学習のねらいに迫ることができるよう配慮されている。 2年生以上には「つなげよう」の視点を設けることで、他教科や日常生活に関連付けた学習ができるよう配慮されている。
	<p>(2) 児童が深く考えることができるよう適切な喜びに配慮されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 低学年では身近な話や物語を、高学年では、先人や著名人、スポーツ選手などが目標達成のために努力、苦悩する姿を取り上げることで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年では身近な話を取り上げ、発達の段階に応じて、先人や著名人、スポーツ選手などの夢の実現に向けた努力や苦悩などを取り上げていくことで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年から、先人や著名人、スポーツ選手などを積極的に取り上げ、よりよく生きようとする人間の姿や目標達成のために努力、苦悩する姿を取り上げることで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年では、身近な話を取り上げ、高学年になるにつれて、先人や著名人、スポーツ選手が夢や目標達成のために人知れず努力し、悩む姿を取り上げることで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。
	<p>(3) 指導方法や問題解決の工夫を体験的な学習や学習道徳等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3年生以上で「問題を見つけて考える」を設け、メッセージを投げかけたり、それに関連する題材を意図的に掲載したりすることで、問題解決的な学習が展開できるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 別冊資料に「こころのパレット」を設け、道徳的価値に迫る問いかけをすることで、多様な考え方を引き出し、それを基に様々な言語活動へとつなげることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 役割演技を行う「やってみよう」やソーシャルスキルトレーニング等を紹介した「スキル」のコーナーを設けることで、道徳的行為に関する多様な体験的な学習ができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の後に、「つなげよう」「コラム」を適宜設けることで、教材で学んだ道徳的価値をさらに深く考えたり、実生活へ発展的に生かそうとしたりする多様な学習形態へとつなげることができるよう配慮されている。

Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

観点	発行者	日 文	光 文	学 研	廣あかつき
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う上での特長</p>	<p>(1) 児童の発達するための段階に即し、配慮されたいを</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の後に、学習の視点を設けるとともに、別冊に自分の思いや考えを記述できるようにすることで、児童がねらいに迫ることができるよう配慮されている。 「心のベンチ」のコーナーを設けることで、教材文とつながる発展的な学習が展開できるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教材で「問いをもつ」「考える」「まとめる」「広げる」という学習の道筋を示すことで、児童がねらいに迫ることができるよう配慮されている。 教材間にコラムを設けることで、道徳の学習で学んだことを実生活や地域社会へつなげることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の後の「考えよう」に、学習を振り返り考える視点につながる発問を設けることで、児童がねらいに迫ることができるよう配慮されている。 「深めよう・つなげよう・やってみよう・広げよう」を設けることで、児童が主体的に学習を進められるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の後に「考えよう話し合おう」を位置付け、学習の道筋を示すことで、児童が主体的にねらいに迫ることができるよう配慮されている。 別冊「道徳ノート」を活用することで、実生活へつなげることができるよう配慮されている。
	<p>(2) 児童が深く考えられるよき活動が適切に</p>	<ul style="list-style-type: none"> 低学年では、発行者編集の教材文を、高学年になるにつれて、先人や著名人、スポーツ選手が夢に向かう中で悩み、葛藤し、克服していく姿を取り上げることで、自分らしさを発揮し、よりよく生きることの喜びを感じ取ることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年では、主に身近な話を、高学年になるにつれて、多くの先人や著名人、スポーツ選手などが夢や目標達成のために努力する姿を取り上げることで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年から、先人や著名人、スポーツ選手の生き方に関する資料を掲載し、夢や目標達成のために努力する姿などを取り上げることで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年から、先人や著名人、スポーツ選手に関する資料を掲載し、目標達成のために努力する生き方を振り返る学習を設定することで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。
	<p>(3) 指導方法として、問題解決の工夫を配する学習や道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「学習の手引き」で、話合いや役割演技など様々な学習形態を示すことで、児童が主体的に問題解決的な学習や体験的な学習に取り組むことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「問いをもつ」「考える」「まとめる」「広げる」という学習の道筋を明記するとともに、「みんなでやってみよう」のコーナーを設けることで、実生活へ生かすことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の後に「深めよう・つなげよう・やってみよう・広げよう」を設定することで、多様な言語活動や役割演技など、児童が主体的に学習を進められるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生以上では、教材文の後に、「学習を広げる」を設定することで、多様な言語活動や体験的な活動、発展的な学習等ができるよう配慮されている。

Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

観点	発行者	東 書	学 図	教 出	光 村
<p>2 特長</p> <p>学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う上での</p>	<p>(4) 公正な視点から、児童の発達の多角的段階に即して考えられるか。物事を多面的・多角的に配多慮さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3年以上では、他教科との関連を図りながら道徳的価値について考える「つながる・広がる」のコーナーを設けることで、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 別冊の「まなび」編において、「自分の考え」とともに「友達の考え」を記入することで、他者の多様な感じ方や考え方に触れ、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の後の「深めよう」では、発問を設け、自分自身のこれまでの体験を振り返り、考えや感じ方をまとめ、他者との比較することで、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の後に「考えよう・話し合おう」では、児童が自分自身の考えを見つめ直し、他者の多様な考え方に触れることで、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。
	<p>(5) 現代的な視野も含まれているか。広く、題材</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ問題」については、全学年でとびらのページ、道徳の価値にせまる教材、直接的に扱う教材の3段階で配置することで、つながりのある学習として広く題材を選択している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめの解消」については、具体的な児童の生活での場面に即した教材を配置することで、日常生活とつなげて考えることができるよう広く題材を選択している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「命を大切に」テーマでは、連続して複数の題材を配置することで、重点的に道徳性を養うことができるよう広く題材を選択している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代的な課題については、複数の教材とコラムを組み合わせることで、系統性をもって学習できるように広く題材を選択している。
	<p>(6) 家庭や地域社会と連携した活用ができるよう配慮されているか。適切</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で、家族や地域の人とのかわりに関する教材文を取り入れることで、家庭や地域社会の一員としての役割と責任について自覚を深めることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 別冊の「こころのパレット」で、学習内容をより具体的に児童の日常生活に関連付けて示すことで、学習したことを家庭や地域で生かすことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文に家庭での出来事や地域での活動など、児童の日常生活の場面を多く取り入れることで、今の生活と結び付けて考えたり、実践したりすることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の後に学習の手引き「つなげよう」のページを設けたり、長期休業中の実践につなぐコラムを設けたりすることで、学習したことが家庭や地域で生かされるよう配慮されている。

Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

観点	発行者	日 文	光 文	学 研	廣あかつき
<p>2 特長 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う上での</p>	<p>(4) 公正な視点から、児童の発達の段階に即して、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</p>	<p>・関係する教材文の前後に「心のベンチ」のコーナーを適宜配置し、教材文に関連した情報を提示することで、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</p>	<p>・教材文の下段に書かれた発問に向き合い、自分自身の経験や考えを見つめ直すことで、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</p>	<p>・教材文の後に「深めよう」のコーナーを配置し、他者の多様な考え方や感じ方に触れ、自分自身を振り返ることで、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</p>	<p>・教材文の後にある「考えよう・話し合おう」の問いに向き合い、他者の多様な感じ方や考え方に触れることで、自分の考えを見つめ直し、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</p>
	<p>(5) 現代的な課題などにおいて、題材国の選択等も行っているか。</p>	<p>・いじめや情報モラルなどの現代的な課題は、年間に複数回扱うとともに、「心のベンチ」でも扱うことで、発達の段階に合わせて継続的に道徳性を養うことができるように広く題材を選択している。</p>	<p>・「命をかがやかせる」「いじめを生まない心」「情報社会を生きる」に関する題材の配置に重点を置くことで、それらの道徳性を養うことができるよう発達の段階に応じて広く題材を選択している。</p>	<p>・現代的な課題を扱った教材の後に「つなげよう」「深めよう」「広げよう」のページを配置することで、現代的な課題と自分との関わりについて、自主的に考えることができるよう広く題材を選択している。</p>	<p>・3年生以上では、巻末に「命をまもること」「ともに生きる社会」「情報モラル」に関するコーナーを設けることで、他の教育活動との関連を図りながら、活用できるよう広く題材を選択している。</p>
	<p>(6) 家庭や地域社会と連携した活用ができるよう配慮されているか。</p>	<p>・教材文の後にある「見つけよう生かそう」の問いでは、今までの生活を見直したり、学習したことを日常生活につなげて考えたりすることで、実践につなげることができるよう配慮されている。</p>	<p>・教材文を家庭での出来事や地域との交流、行事への参加、身近な自然災害を中心とした内容にすることで、学習したことが児童の日常生活とつながるよう配慮されている。</p>	<p>・家庭生活や地域社会に関連する教材の後に、実践を促す情報「広げよう」や、「家の人と話し合おう」を設けることで、家庭や地域社会との連携が促進されるよう配慮されている。</p>	<p>・家族との関わりや出来事、地域の人との交流や行事などを内容とした教材文を発達の段階を考慮して配置することで、家庭や地域と自分との関わりを考えることができるよう配慮されている。</p>

Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

発行者		東 書	学 図	教 出	光 村
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長	(1) 文章は、わかりやすく、質・量ともに豊かなか。	<ul style="list-style-type: none"> 言葉のまとまりで改行することで、読み違いを防ぎ、文章の意味がつかみやすくなるよう工夫されている。 他教科の道徳教育に関する資料を巻末の付録に複数設けることで、質・量ともに豊かな内容となるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の範読時間を5分程度に想定し、45分授業に適するような教材の分量や内容になるよう配慮されている。 当該学年配当漢字にもふりがなを付け、低学年では分かち書きや文節での改行をすることで、教材が読みやすくなるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 4～6年では、必要に応じて脚注を参考にすることで、語彙力に合わせて読み進めることができるよう工夫されている。 各学年の巻末に複数の補充教材を設け、実態に応じて取り扱うようにすることで、質・量ともに豊かな内容となるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字量を減らし、できるだけ教材文を短くすることで、児童にとって読みやすく、内容を理解することができるよう配慮されている。 低学年の教材文では、改行を工夫したり、分かち書きを1～3文節程度にしたりすることで、読むことへの負担が軽減されるよう配慮されている。
	(2) 写真、挿絵、図表など、学習意欲を高めるとともに、学習効果に十分配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 教材文に関する挿絵や写真を大きく掲載したり、漫画や紙芝居を活用した教材を用いたりすることで、興味・関心を高めることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 漫画を用いたり、教材文に関する新聞記事や詩、挿絵や自然の写真などを大きく提示したりすることで、関心をもって取り組み、学習効果が高まるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文に関する自然の写真や先人やスポーツ選手などの登場人物の写真を大きく掲載したりすることで、興味・関心を高めるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の内容が変化する場面で改頁するよう教材文や挿絵を掲示したり、漫画を活用した教材を提示したりすることで、学習効果が高まるよう配慮されている。
	(3) レイアウトや色、挿絵の活用、紙質、文字の大きさ、適切に配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 大きさはA B判を採用し、行間にゆとりを確保したり、余白をもたせたりすることで、教材文に目が向きやすく、読みやすくなるよう配置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きさはA B判を採用し、挿絵や写真を大きく掲載するとともに、別冊にすることで、学習の振り返りがしやすくなるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きさはA B判を採用し、教材に関する挿絵や写真等を大きく掲載したり、教材文の上部や下部に余白を確保したりすることで、教材文が読みやすくなるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きさはB 5判を採用し、各学年の文字のフォントや行間を工夫し、余白を確保することで、文や挿絵に児童の目が向きやすくなるよう配慮されている。

Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

発行者		日 文	光 文	学 研	廣あかつき
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長	(1) 文章は、わかりやすく、質・量ともに豊かな記述内容となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年配当漢字にもふりがなを付けることで、教材文を読むことの負担を減らすよう配慮されている。 補足説明等を詳しく記載したり、タイトル部分にあらすじを示したりすることで、読み取る際の負担軽減になるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 巻末に「ふろく」として教材文を掲載することで、豊かな内容となるよう配慮されている。 学年に応じた文章量にしたり、教材文の登場人物をイラストで表示したりすることで、読み取る際の負担軽減になるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年から6年まで登場人物を同じにすることで、親しみをもって読み進めることができるよう配慮されている。 できるだけ平易な表現になるように工夫したり、改行や脚注をつけたりすることで、内容が理解しやすくなるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年配当漢字にもふりがなを付けることで、教材文が読みやすくなるよう配慮されている。 1年の教材文は、動物を登場させたり、高学年では、難解語句や固有名詞に、脚注を付けたりすることで、発達の段階に即して内容が理解しやすくなるよう配慮されている。
	(2) 写真、挿絵、図表など、学習意欲を高めるとともに、学習効果に十分配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「学習の手引き」では、教材文の挿絵と児童の写真を区別して掲示したり、「心のベンチ」では、教材文に関する写真や説明を掲示したりすることで、学習意欲と学習効果が高まるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 親しみのある漫画のキャラクターを用いたり、登場人物を教材名の下に提示したりすることで、学習意欲と学習効果が高まるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日記や手紙などは枠で囲み背景色を付けるとともに、人物の考えや気持ちなどを吹き出しで配置することで、興味・関心をもって学習に取り組み、理解を深めることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 詩や歌詞、手紙などを掲示する際、色分けされた枠を用いることで、学習効果を高めようとするとともに、複数の挿絵や写真を掲示することで、児童の学習意欲が高まるよう配慮されている。
	(3) レイアウトや色、紙質、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等に適切に配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 大きさはA B判を採用し、教材文の上部の余白や、教材文の段落間に行間を確保するとともに、別冊「道徳ノート」にすることで、教材ごとに自分の考えを書くことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きさはA 4判を採用し、教材文の言葉や人物紹介などの説明を色で分けるとともに、教材文の下欄には教材に沿った問いを掲載することで、学習の展開がわかりやすくなるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きさはA 4判を採用し、すべての教材を見開きで構成し、登場人物をはじめに挿絵で紹介することで、見通しをもって学習することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きさはA B判を採用し、行間を確保するとともに、別冊「道徳ノート」にすることで、学習を記録し、振り返りがしやすくなるよう配慮されている。